

保育室の色彩

木村俊夫

環境と保育

一、色彩調節とは

- A** 「保育室の色彩は何色がいいですか」
- B** 「……というような御質問をよく受けますが、色の問題はたいへん微妙ですので、やれライト・グリーンとかピンクとか言っても、こちらが思っている色を相手にピタリと伝えることが難しいので……」
- A** 「ほんとにそうです。数字のようにピタリと指し示せないのが困ります」
- B** 「ところが、今日ではそれができるので。私たちは色を数字とか記号で取扱うからこそ、工場や学校や病院や乗物やその他のものの複雑な色彩調節のデザインをらくらくとやれるというわけです」
- A** 「色彩調節というのは……」

二、色を数字で表わすには

- B** 「色を施そうとする対象の本来の在りかたやその機能とか使用目的とかを科学的に理解して、これを一〇〇％に生かすためには色彩のいかなる性質や機能をそこに利用し發揮させたらよいか、を色彩学の知識を傾けて考えるのです……」
- A** 「ずいぶん科学的なのですね。それでは色彩調節のためには絵画とか美とかに対するセンスのない人々でもできないことはないのですね」
- B** 「そうです。そういうセンスはあるに越したことはありませんが、なくてもできます。まず色を数字で抑え、あとは理詰めで押していけます」
- A** 「では色を数字で表わす方法を教えてください」
- B** 「詳しいことは本で見ただくとして、その大体を御話しましょう。色に無彩色と有彩色があるのは既に御存じでしょう」
- A** 「ええ、白・灰・黒のような色が無彩色で、赤とか青とかが有彩色……」
- B** 「そうです。無彩色はただ、明るさ、だけです。しかし有彩色にはその他に……」
- A** 「色相と飽和度があります」
- B** 「その通りです。つまり色には三つのディメンションがあります」

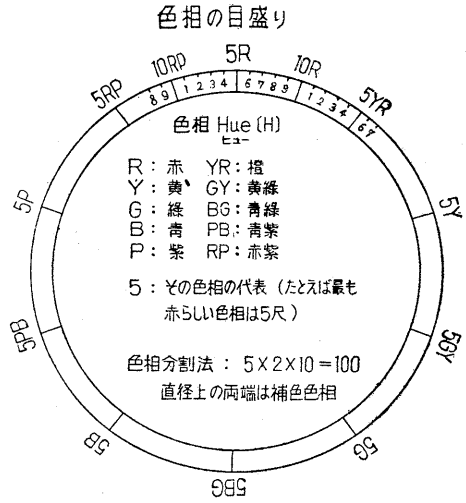
ね。この各々のディメンジョンに目盛りをつけるのです」

A 「色に目盛りを……」

B 「そうです。しかし目盛りと言ってもいわば番号です。一番と二番の感覚的の差が二番と三番の感覚の差に等しいようにしてつけるのです。これにいろいろのシステムがありますが、私たちはもっぱらマンセル・システムを使っています。たいへん便利です」

A 「ではそれを教えて下さい」

B 「てっとり早く呑込むには図解がいいですから右にその図を描きましたから、よく御覧になって下さい。……だいたいおわかりで



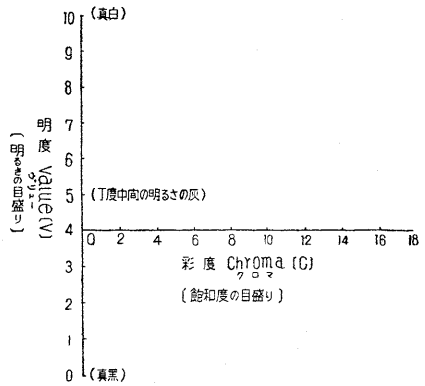
しょう。あとは塗料メーカーがサーヴィスしている色見本カード、これは近頃ほとんどマンセル記号を使っていますから、始終手にして眺めることです。その外に立派な色見本帳も出ています」

三、保育室の色彩調節

(イ) 基 調 色

B 「色をマンセル記号で取扱う要領がだいとおわかりになりましたと思いますので、他にも未だ必要なこともあります。早速に保育室の色彩の問題にあたってみましょう」

A 「では早速。天井はどんな色がいいでしょうか」



マンセル記号の書き方: $H \frac{V}{C}$

の読み方: 例 $5R \frac{5}{4}$: 5Rの丁の3分

B 「ちょっと待って下さい。幼児は保育室で天井をどの位眺めますか。いや、保育室にいる全体の時間の中で、足し合わせて一番長い時間にわたって幼児の眼に映る建物の部分はどこでしょうか」

A 「さあ……」

B 「身長や姿勢や眼の高さや顔を向ける方向やその他によって違うことはもちろんですが、保育室にいる間じゅうを通算すればいいかどうか……」

A 「そうですね……」

B 「もちろん、それぞれの保育室の建築の模様によっても違いますが……。私は保育室の中にいる幼児を観察するという機会が今までほとんどありませんでしたが、おそらく天井ではないでしょうね」

A 「確かにその通りですね。でもどうしてそういうことが問題になるのですか」

B 「それは、保育室の色彩調節はまず誰のためにするのか、何のためにおこなうのか、ということを考えるからです。もちろん幼児のためでしょう。次に色彩調節の効果は心理的には眼を通してでしょう。そうすると最も長時間にわたりまた最も広い面積を以て幼児の眼に映る場所や物の色をまっさきに取上げてその色を決めるのです」

A 「そしてその色を基調となる色にするのですか」

B 「その通りです。色彩調節のデザインはこんな工合に生活とか行動とかに関する科学、なかんづく心理学的な知識や見かた、考えかたが必要なのです」

A 「よく分かりました。でも今のようなお話は幼児心理学の本なんかには出ていませんですね」

B 「そうですね。こういうことはその立場に立ちその必要を感じてはじめて観察や研究がスタートする、というわけですね。ですからやはりその現場をよく観察してからでないとデザインの構想も困難です。……幼児がどこを見るか、の問題はあなたにもこれからよく観察していただくとして、私自身の想像としては私の子どもの家中での遊びの観察から推して、保育室での子どもの主要な視野はどうやら腰羽目、巾木、床面のあたりではないか、と考えますがどうでしょうか」

A 「そう言われればそういう気がします。子どもたちは保育室の中で遊ぶのに、床に坐ったりエンコしたり、そして積木遊びの際などは壁面を見るより床の方を見ます」

B 「そうですね。天井なんかほとんど見ることはないでしょう」

A 「本当に。では床の色を基調とすればいいですか」

(ロ) 床 材 料

B 「まあ、床でなくとも腰羽目か、その辺の色でしょうね。しかし床の色彩というと木の生地の色が汚れて薄黒くなっているのが大体の

実情ですね」

A 「床を塗装することはできませんか」

B 「ワックスなんかを塗ることはあつてペンキは塗りませんね」

A 「それでは床の色は……」

B 「絶望的ではありません。少々高いですが最近の床材料ではプラスチックタイルとかアスファルト・タイルなど、性能の他に色もなかなかいいですよ。一尺角のものですから色を違えて市松模様にしたことができますから、天井に費用をかけるより床にかけた方がいいのです」

(八) 明度及び彩度のデザイン

A 「保育所や幼稚園なんかでは本当にそうですね。で、……色は緑か何か……」

B 「なるほど。床を芝生とか草原に見たてる訳ですか。それも結構な着想です。しかし、デザインはまず明度よりというのが私の流儀です」

A 「はあ。明度からですか」

B 「ええ。色が見えるのは光あるが故ですが、物体色の明るいものは光を多く反射しますから、色も使いようで採光や照明の補助手段となりますし、色彩調和や物の明視という点からも明度とか明度差が一番大きなファクターになります。床も含めて室内の各部の明度をマンセル・ヴァリユー(以下V)で示しましょうか」

A 「ええ」

B 「下の表を御覧になって下さい。ここについてです

から彩度をマンセル・クロス(以下C)で添えておきましょう。私の流儀は明度の次に彩度を決めます。

さてどうですか。*印の付いたものだけを注目するとある一定の法則めいたものがあることが気づかれるでしょう」

A 「ええ、建物の上から下へ次第に暗くなつてます。彩度はその反対に次第に高くなつてます」

B 「そうですね。そしてそれはそれぞれの部分の面積の大小の順とほぼ併行しています。面積の大きなところのVは大でCは小ですが……」

A 「面積の小さいところはその逆ですね。ああそうだ。そう云えばあまり汚れないところは明るく汚れ易いところは暗いから……」

B 「汚れが目立たなくてよいというわけですか。なるほど。さすがは幼稚園の先生ですね。この表は室内の色のV/Cに関する一般の基準というか、まあデザインの定石です。保育室ではCは高い方を用いるのに何のためらいもありません。廻縁や掲示板に灰を使うのは時に非常に美しく見えます。あつ、そうそう、笠木や腰羽目がない場合の壁面 $\frac{7}{2}$ でいいです」

A 「床のVは腰羽目と同じか少し明るい位ですね」

室内各部	V/C
天井	$\frac{9}{1}$
* 井筒	$\frac{7}{0\sim 2}$
* 廻縁	$\frac{8}{2}$
* 壁面	$\frac{5}{3\sim 4}$
* 笠木	$\frac{6}{3}$
* 腰羽目	$\frac{4}{4}$
* 床柱	$\frac{6\sim 7}{2\sim 3}$
天井	$\frac{7}{2\sim 3}$
掲示板	$\frac{7}{0\sim 2}$

B 「日本間の畳の色を考えてみて下さい。普通の畳はこれより明るい位ですよ。さてこの表は一般的の基準ですからとても明るい部屋とか暗い部屋とかはVをこの基準から少しずつ上下すればよいのです。また、私は教室の正面の壁のVを7にするとかあまり光のこない奥まった壁面を5にするとかいうテクニクも時に使いますが、結果はたいへんいいようです。では次ぎに色相に移りましょうか」

(二) 色相のデザイン

A 「私たちは色という何だか色相を一番さきぎに考えてましたが、実は逆だったのですね」

B 「無理はありません。学校の先生がたから塗板の色は黒がいいか緑がいいか、という御質問は始終いただきますが、未だその明度を一番さきぎに尋ねられた経験はありません」

A 「それはどんなところがちようどよいのですか」

B 「白墨の粉がしみこんだところでVは4.5くらいでいいでしょう。もっとも、大切なのはバックの壁のVとのコントラストがあまり大きくならぬことです。色相はそれぞれの教室に必要な雰囲気と漂わせるに適したものがよく、一般教室では緑もよろしいが、音楽室ではチョコレート色もいでしょう。五線譜をそうしたのはよくありますね。但し、彩度は室内では標識以外にはCで4以下に抑えたいものです。特に注目される部分では」

A 「では保育室では……。そうそう。保育室の腰羽目や床の色相は

何がよいでしょう」

B 「ではお尋ねしますが、保育室はどんな雰囲気と湛えていることが最も望ましいのでしょうか。まず基本線はそこから割出されます」

A 「さあ。心の中ではわかっているのですが、いざ口に出すととなると……むつかしいです。まあ、明るく暖くそして楽しい気分かしら」

B 「そうでしょうね。その他に、これはお聞きしたいのですが、園児は玩具をヒックリ返したようなゴチャゴチャした雰囲気と、スッキリとした秩序感や統一感のあるのと、どちらが好きなのでしょう。幼児にはヨゴレていたい、という欲求が相当ある、などというかたがありますね」

A 「ええ。子どもたちはフィンガー・ペインティングやドロンコ遊びが好きです」

B 「そうすると秩序感や統一感とは保育室では遠ざけた方がいいのかな。弱ったな。一般には、小学校などでも、私は秩序感や統一感を尊重してきたのだけれど、幼稚園では……と。どんなものですかねえ」

A 「もう一度保育概論を勉強しなおしてみます」

B 「私の氣にしたのは一室内での使う色の種類の数、わけても色相の数をどの程度に止めるか、ということなのです。数のあまり多いのはゴテついた感じになります、しかし同一の色相の中にそれらを二つ三つと入れるとずいぶんスッキリしてきます。ではもう、いや、別の形でお伺いしてみましよう……」

A 「どうぞ」

B 「子どもたちは保育室の中で遊ぶ時に、そこを野外に町中に大海原にあるいは家庭の座敷の中にと、さまざまに見立てるでしょうが、どういふ場合が最も多くまた一番好まれてるでしょうか」

A 「これも難しい御質問です。さつきから痛い御質問ばかりです」

B 「いえいえ、そういう訳ではないので、デザインの構想を練るための手掛りとか足掛りというか、それを掴むのに懸命になってるという次第です。それを掴めばまず問題の腰と床の色相が決まり、他は自然に決まる、連鎖反応のようなものです」

A 「御質問にはお答えできませんでしたが、色彩調節のデザインの構想の仕方と言いますか、考えかたと言いますか、それはよくわかったような気がします。が、部屋にも西向きのところがあったりして、そこは夏分には暑いのです。もっともその時刻には園児たちは帰ってしまった後ですが……」

B 「でも保育所なんかでは子どもが夕方までいますから問題になりません。要するに、色相の問題はさつきのような必要な雰囲気他、日照、採光、温度、通風、使用時刻などの問題をもあわせ考えなければなりません。もちろん、保育理念に則った望ましい雰囲気の色相が第一の主眼ですが、……夏分あまり暑い部屋には寒色系の色相を適当に加味して見るからに涼し気な感じを湛えることも必要でしょう」

A 「室内の色彩ではこの他にいろいろの遊具や調度の色彩の問題が……」

B 「そう。それからアカ組とかミドリ組とか、文字通り色分けの問題がありますね。また子どもたちの安全を確保するという見地からの安全標識の色やその教育の問題もありますね」

A 「本当に色の問題はことば通りいろいろございませぬ。いろいろ勉強しなくてわ。この方面でよい手引書とか参考書がありましたらお教えいただけませんか」

B 「そうですね。では後で別に書いて差上げることにいたしましう」

参 考 書

稲村 耕雄 色彩論(岩波新書) 岩波書店 昭30

井手 則雄 色彩の扱い方 小山書店 昭29

木村 俊夫 応用視覚覚論(心理学講座第4巻)中山書店 昭28

色に魅る学校—学校の色彩管理—第一公報社 昭30
幼稚園舎の色彩はどのようにしたらよいか
(第7回幼児教育研究発表協議会集録)

東京都私立幼稚園協会 昭31

学習効果を高めるための物理的条件

(教育心理学大系、第6巻)中山書店 昭33

(茨城大学)